

科目名	少子高齢化社会と人間					開講 キャンパス	神 埼
担当者	岡 部 由紀夫						
開講年次	1(心理) 1・2(ワハ子ども)	開講期	後期	単位数	2	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	少子高齢化社会における現状について説明し、今後の対策について、受講生一人ひとりが考えられるよう課題の揭示を行う。また、「高齢社会」のみに焦点を当てるのではなく、「少子化」の議論も必要であることから、人口減少社会という新しい局面を迎えるなかでの今後の方向性も概説する。						
授業の 到達目標	1) 少子高齢化社会の現状について理解できる 2) 一般的な高齢化の要因について説明できる 3) 日本の少子高齢化社会の特徴を述べるができる 4) 現代社会の生活課題に関心や興味を持つようになる 5) 現代社会の生活課題に対して、主体的に考える 6) 事例や映像資料等を通して、生活課題を感じ取る 7) これからの少子高齢化社会について考えることができる						
学習方法	パワーポイント・視聴覚教材を用いての講義形式						
テキスト及 び参考書等	倉田康路・滝口真 監修『高齢者虐待を防げ 家族・施設・地域での取り組み』法律文化社、2011年						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	○	○		50		
小テスト等	○	○	◎	○	20		
宿題・授業外レポート							
授業態度	○		◎		15		
受講者の発表							
授業への参加度	○		◎		15		
その他							
合計					100		
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	少子高齢化社会とは						
第 2 週	少子高齢化社会の進行						
第 3 週	人口構造の変化・人口転換						
第 4 週	高齢化の現状：要因とその対策						
第 5 週	少子化の現状：要因とその対策						
第 6 週	高齢者と暮らし①：エイジング						
第 7 週	高齢者と暮らし②：健康						
第 8 週	高齢者と暮らし③：人間関係と社会参加						
第 9 週	少子高齢化社会とワーク・ライフ・バランス						
第 10 週	高齢者虐待を防ぐためには①：現代社会と高齢者虐待						
第 11 週	高齢者虐待を防ぐためには②：介護家族と虐待						
第 12 週	高齢者虐待を防ぐためには③：認知症高齢者の権利擁護						
第 13 週	高齢者虐待を防ぐためには④：成年後見制度の活用						
第 14 週	高齢者虐待を防ぐためには⑤：地域での虐待防止						
第 15 週	まとめ						
第 16 週							
備考	※出席回数が開講回数の2/3に満たない場合は、評価の対象としない。						